

責任ある機関投資家として、
資産形成を通じた持続可能な
社会の構築にコミットします



野村アセットマネジメント株式会社
CEO兼執行役社長
渡邊 国夫

責任投資レポートの発行

この度、「責任投資レポート2018」を発行いたしました。責任投資は近年、非常に重要度が増してきている分野です。企業は国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に関する事業展開を推進するなど、環境・社会的側面を重視した取り組みを進めています。また資産運用会社にも、投資先企業の持続的成長を促す取り組みが求められています。

このような流れの中、当社は2016年4月に責任投資調査部を業界初の専任部署として設立するなど、責任投資を経営の最重要課題の一つとして取り組んできております。これまでの私たちの取り組みや考えを、個人やアセット・オーナーのお客様、投資先企業の方々、その他すべてのステークホルダーの皆様にもお伝えしたいと考え、当レポートを作成いたしました。

社会的責任を果たすために

資産運用ビジネスの本質は、お客様のニーズに対応した商品、最良のパフォーマンスとサービスの提供を通じて社会的責任を果たすことです。このような観点から、責任投資に限らず、ESG投資のラインナップの拡充や投資教育等を通じて投資の裾野を拡大する取り組みも行っています。世の中全体が持続的成長を目指す中、人々の資産形成を支えるための取り組みは、私たちにとって必要不可欠です。

一方、近年ではAIなどテクノロジーの進化が著しく、運用業界を取り巻く環境も大きく変化しております。当社では、最先端の運用ノウハウを取り入れるべく、2017年10月に資産運用先端技術研究室(イノベーション・ラボ)を新設いたしました。今後も皆様のご期待に応えられるサービスの提供を続けるには、このような変化に対応した取り組みも必要です。

創立60周年を迎えるにあたって

当社は2019年12月に創立60周年を迎えます。これもひとえにお客様を始めとする皆様方のご支援の賜物と、深く感謝しております。私たちが60年の間成長を持続できたのは、社会的使命を持ちながら日々の業務に取り組むことができたからではないかと思えます。

当社の企業理念は「最高の付加価値の創造」、「高度な専門性の追求」、「信頼の獲得と社会への貢献」です。この理念に基づき、お客様の資産形成を通じて持続可能な社会の構築に貢献し、世の中に必要とされる企業であり続けるよう、これからも努力して参ります。

今後もお客様の資産を預かる「責任ある機関投資家」として、ご期待を超える活動に取り組んで参りますので、引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

企業理念

最高の付加価値の創造 高度な専門性の追求 信頼の獲得と社会への貢献

コーポレート スローガン

Expertise to Exceed^{||}

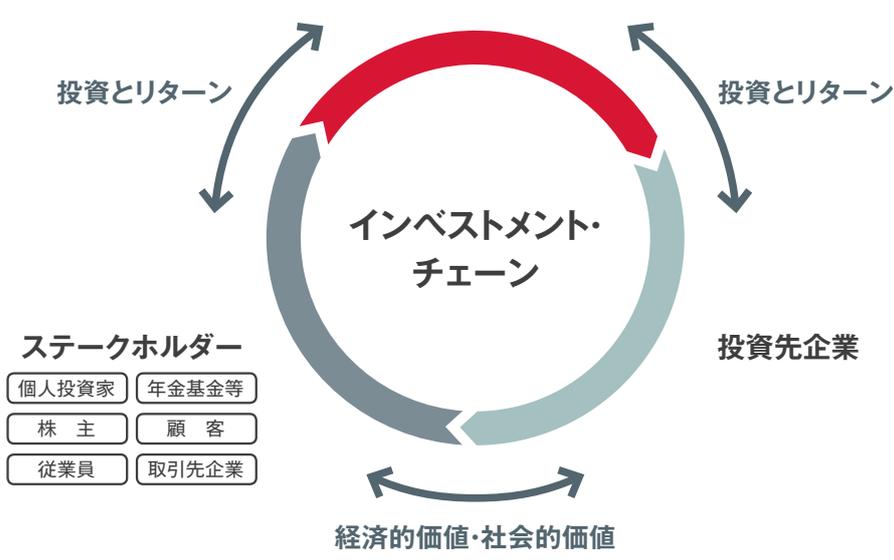
時代を先駆ける専門性と先見性を力に。
卓越したパフォーマンスとソリューションを追求することで、
期待のさらにその先へ。

Investment Chain

投資の好循環の実現



野村アセットマネジメント



持続的な経済成長・
豊かな社会の実現

私たちが目指す姿

野村アセットマネジメントは、責任ある機関投資家として、お客様の資産形成を支え、豊かな社会の構築を目指しています。その為には、投資先企業に持続的成長を促すなど、運用商品の品質を向上させ、より良い商品、サービスの提供に努める必要があります。

一方、投資先企業は調達した資金を効率よく活用し、持続可能な事業を行っていくことが求められます。当該企業の事業活動によって、従業員や取引先企業、株主を含む様々なステークホルダーは経済的価値を得ることができます。また企業は事業を通じて様々な社会的課題を解決することにより、社会に受け入れられ、持続的な成長を可能とします。そしてそれは最終的には、私たちに大切な資金を預けて頂いている個人や年金などのお客様のリターンとなって反映されます。

このような一連の「投資の好循環」を生み出すことにより、持続可能な経済成長と豊かな社会の実現が可能となり、それは最終的にはお客様の資産形成に繋がるものと考えています。



責任投資委員長
運用調査本部長
常務執行役員
津田 昌直

資産運用ビジネスを通じて 社会の発展に貢献します

責任投資委員会の基本理念

責任投資委員会は、投資先企業に対する議決権行使や建設的な対話（エンゲージメント）をはじめとする責任投資に関する最高意思決定機関です。委員会では、基本方針の策定、定性判断が必要な株主総会議案に対する賛否の判断、運用調査におけるエンゲージメント活動の監督等を行っています（下図を参照）。

私は委員会の発足時から委員を務め、18年4月に委員長に就任しました。責任投資委員会はスチュワードシップ委員会とESG委員会という2つの組織が母体となっています。設立にあたり改めて責任投資の基本方針を定める際には、侃々諤々の議論を行いました。完成した基本方針には、当社の使命が

「資産運用ビジネスを通じて社会の発展に貢献してゆくこと」と明記しました。その背景には、投資先企業におけるESG課題の把握、エンゲージメントや議決権行使といった責任ある投資家としての行動が、健全で持続可能な社会と効率的・安定的な資本市場の実現に繋がるという確信がありました。この考え方が委員会の基本的な理念となっています。

当社の責任投資の特徴

当社の責任投資の強みは以下の4点です。

第一の強みは、長期にわたる責任投資への取り組みの歴史です（右頁を参照）。責任投資委員会は2014年10月にESG委員会を改組する形で設置しました。その後、2015年10月にスチュ

責任投資における組織体制



主な活動内容

投資先との対話 (エンゲージメント)	議決権行使	投資判断への統合 (ESGインテグレーション)	協働・対外活動
-----------------------	-------	----------------------------	---------



ワードシップ委員会を統合しましたが、そのルーツは2001年に設置した議決権行使委員会にあります。長い歴史の中で、常にお客様からの付託を意識した真剣な議論を積み重ねてきたことで、多くのプロフェッショナルによる多様な意見、活発な議論を尊重する責任投資に資する文化が形成されました。

第二の強みは、時代の要請や変化を先取りして継続的に組織改革に取り組む、強固な体制を構築できていることです。その一例として、2016年には責任投資委員会を監督する組織として責任投資諮問会議を設置しました。独立性の高い社外取締役が過半数を占めており、利益相反管理体制は更に強化されました。諮問会議がリアルタイムに委員会での議論を監視する仕組みは、業界内でも類を見ないものと考えています。

第三の強みは、グローバルで多様性に富んだ人材とその調査力です。国内最大規模のアクティブ運用に取り組む多数のポートフォリオマネージャー、ア

ナリスト、ESGスペシャリストが分析力・洞察力を発揮し、責任投資にコミットしています。

最大の強みは議論を尽くすこと

第四の強みは、議論を尽くすことです。2018年の責任投資委員会で議論が最も白熱したのはM&A関連の議案や株主による増配議案です。委員の間で賛否の判断が分かれる、あるいは事務局案が覆ることも度々ありました。責任投資諮問会議のメンバーも委員会に陪席し、利益相反に限定することなく積極的に議論に加わりました。議論を尽くすことが最も効果的な利益相反管理に繋がると考えているためです。予定時間を超過することも度々ありました。このように時間をかけ活発に議論することが当社の最大の強みだと考えています。

このような強みを生かして、投資先企業の企業価値の向上と持続的成長、更には健全で持続可能な社会や効率的・安定的な資本市場の実現のため、責任投資への取り組みを進めていきます。

責任投資委員会の開催実績

2018年1月~12月

責任投資委員会

17回

定例 4回 臨時 13回

責任投資諮問会議

7回

定例 4回 臨時 3回



責任投資の歴史

2001

議決権行使委員会を設置

2004

SRIインデックスファンドの運用開始
ガバナンスファンドの運用開始

2010

英国スチュワードシップ・コードを受け入れ

2011

ESG委員会(現責任投資委員会)を設置
国連責任投資原則(UN PRI)への署名

2014

日本版スチュワードシップ・コードの受け入れ
ESG委員会を責任投資委員会に改組
議決権行使委員会を
スチュワードシップ委員会に改組

2015

責任投資グループ、ESGスペシャリストの新設
スチュワードシップ委員会を責任投資委員会に統合

2016

責任投資調査部の設立
利益相反管理方針を策定し、
責任投資諮問会議を設立
シンガポール、香港、台湾の
各スチュワードシップ・コードを受け入れ
英国拠点がUK FRC[※]によりTier1評価を獲得

2017

議決権行使結果の個別開示
マレーシアのスチュワードシップ・コードを受け入れ

2018

自己評価の開示

※UK FRC (Financial Reporting Council)
英国財務報告評議会の略